第四回日本結核病學會宿題報告

肺結核ノ一般療法

其一、肺結核ノ藥物的療法

醫學博士　有馬　賴吉

緒論

結核病ヲ原因的、病理組織學的竝ニ臨牀的見地ヨリ觀察スルニ原因的ニハ菌ガ人體ニ侵入シ來ルノ際ノ新舊、其毒性ノ強弱ト及ビ菌量卽チ厚薄ニ關シテ

一、新鮮濃厚毒ト

二、陳舊稀薄毒トニ分ツヲ至當トスル。

甲ハ概チ肺結核、喉頭結核患者ノ咳嗽飛沫及ビ其レノ鬱積スル室內ニ局限シ、人體ヲ辭シテ時日ヲ經ルコト極メテ僅少ナルモノニ限リ、卽チ感染發病ノ因ヲナス瘴魔外道デアリ、乙ハ患者ノ住居スル屋內、集團、遊樂ノ場所、交通機關及ビ街路ニ向テ順次稀薄トナリ且ツ新鮮ノ度ヲ減ジ、卽チ菌ハ喀痰ト共ニ先ヅ腐敗シ、乾燥シ、日光、風雨ニ暴露シテ其毒性ヲ殺ガレ且ツ終ニハ死滅スルモノデアリ、從ツテ結核馴地ニ在テハ殆ンド人生到ル所ニ存在シ、處女地ニ在テハ概シテ患者ノ居住及其徘徊スル所ヲ出デズト見做スヲ得ベキモノデアツテ、人體ニハ輕キ感染ヲナシ、若クハ感染セズシテ免疫ト「ツベルクリン」過敏性トヲ賦與シ、終ニハ新鮮濃厚毒ノ侵襲ニ遭フモ能ク之ヲ防衛シ得ルニ至ラシムル天來ノ神仙デアル。

但シ此瘴魔外道ト天來ノ神仙トハ素ト一楯ノ兩面デアッテ其相接スルヤ凸裏凹面相分ッコトノデキナイモノデアル。

又人體ハ生レテ日月春秋ヲ經ルニ從ッテ一切ノ外襲ニ對スル抵抗ヲ增スガ如ク結核ノ侵襲ニ對シテモ亦愈〻防衞ノ機力ヲ加フルガ故ニ成年壯年ニ至ッテハ結核ニ感染スルノ危險漸ク減ズルト同時ニ幼少益〻敏感ノ度ヲ加ヘ、生レテ初メテ呱々ノ聲ヲ擧ゲタルノ日ハ結核感染ノ最モ危險ナルノ第一日トナス、故ニ幼乳兒結核感染危險ノ程度ハ處女地ト馴地ニ於テ區別ナク、此時彼ノ新鮮濃厚毒ニ觸ル、アラバ俱ニ太ダ速カニ感染發病シテ急性結核ニ殪レ、處女地ニ在テハ年稍ヤ長ジタル者、若クハ成年、老年ト雖モ屢〻急性若クハ亞急性ノ致死的罹患ヲナシ、馴地ニ棲息シテ幼時ニ此罹患ヲ免ル、者漸ク長ジテ家庭ノ外ニ遊歩シ、就學シ、若クハ社會生活ヲナスニ至リテ陳舊稀薄毒ヲ反復呑吐スルニ至ラバ、茲ニ、自然ノ後天免疫ヲ獲得シテ終ニハ濃毒ノ感染ヲ免レ得ベク、若クハ幼弱卽チ免疫獲得ノ未ダ成ラザルニ乘ジ濃毒ニ觸ル、ノ頻度ニ關シテ此兩者ノ中間ニ位スル慢性疾患ヲ發生スルニ至ルモノデアル。

卽チ人體ハ常ニ必ズ主トシテ新鮮濃厚毒ニヨリテ感染シ、個體ノ無免疫ナル場合ハ其幼長ニ應ジテ急性若クハ亞急性致死的疾患トナリ(第一類、本型)、幼弱免疫未ダ成ラザル者ニ在テハ感染ノ輕重ニ應ジテ長サヲ異ニスル潛伏時期ヲ經テ慢性ノ疾病ヲ構成シ、免疫性ヲ發生シ、一部ハ自然ニ若クハ醫治ニヨッテ治癒シ、或ハ免疫消耗シテ之ニ殪レ(第二類、變型一)、陳舊稀薄毒ヲ呑吐スルコト屢〻ナルニ進ンデ、若クハ其後濃毒ニ觸レテ之ニ感染セズ、若クハ感染シテ潛伏結核ニ終リ、免疫ヲ獲得シテ健康ニ留マル(第三類、變型ノ二)モノデアル。

又結核ヲ病理組織學的見地ヨリ觀ルニ、其急性亞急性致死的ナルモノハ滲出性破壞性炎症ニシテ、其潛伏性治癒性ナルモノハ產出性瘢痕性ナリ、慢性疾患ヲナスモノハ此兩者ノ混合型ニシテ皆俱ニ特殊ノ細菌性炎性疾患タルニ外ナラズ。

一言ニシテ是ヲ掩ヘバ

『結核病ハ特殊ノ細菌性寄生ニ基キ免疫ヲ以テ終始スル炎症性疾患デアル』。

然ルニ細菌性炎症ハ所謂寄生性疾患ト有機性腐敗現象トノ區別甚ダ明瞭ナラズ、私見ヲ以テスレバ所謂細菌性疾患ハ總テ皆ナ死物寄生卽チ腐敗ト同義ニ屬シ、生理的健常ナル組織ニ寄生性炎症ヲ發生スルコトハ殆ンド無之ト謂フヲ得ベク、

結核菌寄生ノ動機モ亦必ズ他種ノ刺戟ト傷害トノアルヲ必要ナル前提トナシ、一旦寄生的占居卽チ病變ヲ發シテ稍〻時日ヲ經、組織ト體液トニ免疫性ヲ生ズルニ至ラバ益〻其寄生的蔓延ヲ制限セラルト見ルベシ。

斯クテ細菌性炎症ノ擴蔓ニ向テハ組織若クハ體液ノ生理的異常卽チ病理的狀態ヲ必要ナル前提トナシ、結核菌ガ原病竈ヲ發生シ、若クハ慢性病竈ノ擴大、轉移スル等モ亦必ズ此前條件ヲ要トス（„locus nullius resistentiae"）。夫レ故ニ炎性疾患ハ總テ他種ノ刺戟アルニヨツテ擴大增惡シ、ソレノ苅除、安靜保持ニヨツテ退縮治癒ニ赴ク、卽チ諸種ノ外科的結核ノ適當ナル治療ニ應ジテ比較的治癒シ易キニ反シ、肺竝ニ喉頭結核其他ノ內臟結核ノ治癒困難ナル所以ヲ見ルベキデアル。

肺及ビ喉頭ハ生理的ニハ呼吸、發聲竝ニ各種ノ怒責等ニヨリ、病的ニハ咳嗽、噴嚏、喚泣、怒號等ニヨリテ卽チ生理的竝ニ病理的ニ其機能ヲ營ムガタメニ振顫、衝動ノ機械的刺戟絕エザルノ臟器デアル。一旦此所ニ生ジタル炎性疾患ガ此刺戟ニ乘ジテ、其都度其淋巴間隙ト解剖的間腔トヲ傳ハリテ擴大シ、組織ノ生理的異常ヲ起シ、結核菌ノ寄生的條件ヲ提示スルコト、實ニ戰慄ニ値スルモノガアル。是レ卽チ內科的結核病ノ難治ナルノ理由デアル。

卽チ換言スレバ

『結核病ハ特殊ノ細菌寄生性炎症性疾患デアツテ、是ニ感染スルトセザルト、感染發病シテ經過ニ長短アリ、豫後ニ良不良アルハ個體免疫ノ有無强弱ト、局所性生理的異常ヲ起シテ是ガ寄生ヲ許シ若クハ其炎症ヲ增惡セシムルノ要約卽チ臟器ノ生理病理的機能的機械的刺戟ノ有無ト强弱トニ是レ由ルモノデアル』。

夫レ故ニ結核病ノ治療ニ與ラン者ハ必ズ一面ニ於テハ

原因的療法　卽チ個體免疫性ノ增强ヲ圖ル特殊療法竝ニ菌ノ滅殺ヲ目的トスル化學的療法ニ留意スルト俱ニ

病理的療法　卽チ敍上ノ機能的機械的刺戟ヲ緩解シ若クハ是ヲ除去スルノ工夫ヲ以テ專念スベキデアル。是ヲ結核治療ノ二大要道トスル。

玆ニ今年ノ宿題タル肺結核ノ一般的療法ノ位置ヲ案ズルニ卽チ前述ノ病理的療法ニ屬シ、病理的療法ヲ假リニ

一、氣候的療法
二、理學的療法
三、食滋榮養療法
四、藥物的對照療法
五、外科的療法

ニ區別スルトキハ、所謂一般療法ハ外科的療法ヲ除クノ外全部ヲ包含スル最大分野デアツテ、原因的療法殊ニ特殊療法ノ普及未ダ一般ニ及ボサザル今日、又外科的療法適用ノ範圍甚ダ狹小ナル肺結核ニ在テハ治療法ノ最大部分ハ卽チ是ニ則ツテ行ハル、モノデアル。從テ今日マデノ肺結核治癒ノ唱ヘラル、功績ハ殆ンド全部此一般療法ノ占ムル所ノモノデアル。

私ノ分擔スル藥物的療法ハ卽チ敍上ノ病理的療法卽チ病竈ノ炎症ヲ緩解シ若クハ是ヲ苅除シテ瘢痕治癒ニ赴ク自然ノ治癒機轉ヲ助長スルノ目的ヲ兼テ諸種ノ症狀ニ應ズル對症的所置ヲ施シテ患者ノ痛苦ヲ除去スル方法ヲ包含スルモノデアルガ、淺學菲才ナルト、時間ノ制限アルガタメニ決シテ其全般ニ亙リテ詳細ヲ盡スヲ得ズ、已ムナク、主トシテ自家ト少數ナル同僚ノ經驗セル所ノ一部ヲ發表シテ諸君ノ御高敎ヲ仰ガント欲スルモノデアル。

扨テ藥物的療法ハ又其他ノ療法ト等シク、其使用ノ方法ガ、內服ニマレ、皮下注射若クハ靜脈內注射ニモアレ、藥物ハ卽チ毒物デアルニヨリ、往々不測ノ障碍ヲ起シ、卽チ厭ハシキ副作用ヲ惹起スルコトアルモノデアルカラ、是ガ實施ニ先チテ常ニ必ズ、

一、適應症ヲ確認シテソレニ必要ナル範圍ヲ越ヘザルコト
二、副作用ノタメニ疾病治療ノ眼目ヲ妨ゲラレザルコト

ノ二點ニ向テ注意スベキモノデアル。乍併又『藥不瞑眩厥疾不癒』ト云フ語アリ、這箇ノ妙諦ハ須ラク言辭ノ外ニオクベキデアロウ。

藥品ノ選擇　ハ治療醫ニ取ッテ第一・著ノ重大ナル責任デアリ、此點デハ藥業者ノ良心ニ待ッベキモノ大ナルヲ思フガ、是ハ必ズシモ倚賴スベカラザル趨向ナキニシモアラズデアルカラ、先ヅ自ラ相當ノ見識ヲ以テ是ヲ選ビ、自己ノ經驗ニ依テ其適用ヲ體得スルト同時ニ特ニ常ニ藥理ヲ稽考シ、他人ノ深キ經驗ニ聽キテ是ヲ尊重スルヲ宜シトスル。殊ニ內外ノ新藥簇出シテ應接ニ遑ナキ今日ニ於テハ治療醫ノ立場ニ一層ノ困難ヲ加ヘ深甚ノ注意ヲ要トスルモノデアル。

各論

結核ノ特效藥

トイフモノガ以前ニハ可ナリ多數ニアッタヤウデアル。漢法ニモ斯ノ如キモノガアッタカモ知レヌガ、吾々ノ手ニ傳ヘラレタモノハナイ。

「クレオソート」竝ニ其レノ主成分「グアヤコール」及ビ其炭酸鹽、「チオコール」等ハ昔ハ結核ノ特效藥デアルカノ觀ガアリ、黃イ相貌ノ人々ハ殆ンド皆「クレオソート」臭ヲ放ッテ街頭ヲ徘徊シタ時代モアッタ、「グアヤコール」、「チオコール」ノ如キハ現今モ未ダ廣ク用ヒラレテキルガ、是ガ決シテ結核ノ特效藥デハナキコトハ周知ノ所デアル、內地製ノ「クレオソート」誘導物ニ「ファゴール」トイフモノガアル、是ニ樟腦、「イヒチオール」モ同樣ニ特效藥ノ如キ取扱ヲ受ケタコトガアッタ。是等總テハ現今デハ、纔カニ胃腸ノ醱酵ヲ阻止シ、由テ以テ幾分食慾增進ノ效アリ、往々痰ヲ減少セシムルコトガアルトセラル。肺結核治療ノ上ニ缺クベカラザルモノトハ決シテ謂ヘナイ、是ヲ用フルトシテモ「グアヤコール」、「チオコール」等ノ高價ナルモノニ比シテ、廉價ナル「クレオソート」ガ最モ優レタル藥效ヲ有スルコトモ今ハ亦周知デアロウ。

或ル老醫ハ「クレオソート」ハ萬病ノ特效藥デアルト言ッタ、多量ノ米飯ヲ鵜呑ニシテ胃腸ノ異常醱酵ヲ有タナイ者無キ本邦人ニハ適當ナル萬病特效藥デアルカモ知レナイ。

「ヨード」或ハ砒素劑ノ如キ所謂變質藥ガ結核患者、腺病質ノ兒童等ニ間接ニ好影響ヲ有ッコトモ周知デアリ、私達モ鐵

劑ト砒素劑トヲ合シタ亞細亞丸ト稱スル如キモノヲ現ニモ往々使用ハスルガ、特效藥トシテ是ヲ觀ルモノデハナイ。萬能藥ニシテ殆ド結核ノ特效藥ノ如キ位置ヲ占メ、我國ニ於テ世界ニ率先シテ結核治療劑トシテ高唱セラレ且ツ現ニモ我國ニ於テ最モ廣キ需用ヲ見、素人間ニモ行キ亙リ、往々自ラ是ヲ注射スル如キ盛況ヲ呈スルモノニ「カルチウム」ガアル。曩ニ一九一〇年維納ノハンス、マイヤノ弟子 Chiari & Januschke ノ兩人シテ炎症殊ニ其滲出機轉ニ對シテ「カルチウム」鹽ニ是ヲ抑制スルノ作用アルコトヲ報告セラル、ヤ、我ガ佐多先生ハ倏チニシテ是ガ結核ノ病機ニ對シテ卓效アルベキヲ看取セラレ、方策ヲ定メテ私ト倉重貞二君田中實君等ニ其應用ノ途ヲ拓クベキヲ命ゼラレタモノデアル。當時ノ佐多先生ノ著想ガ明治四十四年六月發行ノ醫學中央雜誌ニ載セラレテアルカラ、溫古ノ意味デ是ヲ摘錄スレバ

『結核ノ自ラ治癒ニ赴クモノヲ見ルニ、結締織增生ニ次グニ、多クハ石灰變性ヲ以テス。夫レ新生ト滲出ト酪變トハ結核機轉ノ本體ニシテ、甲ノ秀デテ乙丙ノ劣リタルモノハ善性ヲ徵シ、乙丙ノ盛ニシテ甲ノ微ナルモノハ惡性ニ傾ク。而シテ石灰ノ沈著ハ活力幽微ノ組織或ハ死滅ノ局部ニ起ルヲ常規トス。故ニ自然療法ニ模シテ結核ノ治療ヲ企テントスル者ハ須ラク此病機ニ著眼シテ本然ノ良傾向ヲ善導スルヲ怠ルベカラズ。茲ニ若シ結締織ノ新生ヲ促シ(甲)、滲出機轉ヲ抑ヘ(乙)、酪變ヲ固結スル(丙)ノ作用ヲ具備スル藥劑ノ應用ニ適スルモノアランニハ其作用ノ一ヲ能クスルモノモ亦是ヲ稱スベク、況ンヤ二三ヲ兼ヌルモノハ大ニ揚グベキナリ。余ハ「ツベルクリン」ノ連用ヲ以テ甲作用ニ合フモノトナシ、「カルシウム」ノ應用ヲ以テ乙丙ノ兩作用ヲ兼ヌルモノトナシ、其應用ノ方法ト普及トヲ講ズルヲ結核學者ノ一作業ナリト認ム』。

トアル。斯ノ如キ意圖ヲ以テ始メラレタル「カルチウム」療法モ初メハ僅ニ內服療法デアッテ擧功甚ダ怪シク、次デ皮下注射ニ進ムニ及ンデハ局所ノ腐蝕作用ヲ緩和センガタメニ種々ノ保護劑ヲ配シ、其他アラユル苦心ヲ重ネテ、其應用開始以來四年ノ歲月ヲ經テ、終ニ佐多先生ノ gewagte Entscheidung ニヨリテ今日ノ靜脈內注射ニ進展シタコト、又其儘ノ使用法ガ歐洲ニ傳ハッテ、獨歐ノ諸國ニ於テモ今ヤ盛ニ其應用ヲ見ツツアルハ、私淑先覺者ニ從ッテ此療法ヲ始メタ者トシテハ欣懷禁ズル能ハザル所デアル。

「カルチウム」鹽ハ其後ニ至ツテ其藥理學的作用ガ漸次明カトナリ、全身總テノ細胞ニ對シテ「カリウム」ト反對ニ緊張的ニ作用スルモノナルコトガ知レ、其炎症ヲ防止スルノ作用モ恐ラク此外ニ出デズ、所謂細胞鞭韃劑トシテ獨特ノ地歩ヲ占ムルモノトナリ、殆ンド是ヲ放シ難キ「アルゲマイングート」トナツタ。唯ダ其制炎作用、卽チ例之バ、靜脈內注射ヲ連用シテ水泡音ノ減少若クハ消失スルトカ、喀痰ノ量ガ減ズルトカガ、吾々ノ此應用開始當時ノ如ク著明ニ眼立タザルハ何故デアルカ、或ハ是ヲ觀ルコト長キガ故ニ觀察ノ眼ガ馴レタタメデアルカ、或ハ又別ニ因由ガアルカ、他ノ疾病、例之、喘息ニ應用シテ以前ノ如ク偉效ヲ收メ得ザル如ク思ハルルヨリシテ、以前卽チ其當時ハ唯一ノ信賴スベキ製劑トシテ、獨逸メルク會社製ノ「クロールカルチウム」ヲ用ヒタノデアルガ、現ニ內地ニテ製出セラルヽ種々ノ製劑モ其藥效ソレニ及バズ、戰後獨逸製ノモノモ亦同樣ノ感ガアル所ヨリシテ、戰前ノ獨逸製品ガ慕ハシク思ハルヽハ如何ナルモノデアルカ。目今ニテハ戰前ノ獨逸品ヲ手ニ入ルヽ方法ナク、是ヲ檢査スベキヨスガハナイガ、私ハ何トカシテ、今日使用ノ恐ラク純粹品ト以前使用シテ、卓效アリタリト思ハレタルモノトノ區別ヲ探知シタイト念ジテ居ル。

現ニ使用ノモノハ殆ンド皆三乃至五%ノ「クロールカルチウム」溶液デアル。是ヲ靜脈內ニ注射シテ、注射後一時二時間ニシテ惡寒ヲ以テ急ニ發熱シ、二、三時間ニシテ忽チ下降スルコトアルハ、溶解シタル蒸餾水ノ不良ナルト、溶解後ノ滅菌ノ不完全ナルタメデアル。何故ニ滅菌不完全ナルモノガ斯ル一過性ノ反應ヲ現ハスヤハ未ダ明カデナイ。此「カルチウム」ヲ主藥トシテ種々ノ靜脈內注射劑ガ市中ニ販賣セラルヽコト周知ノ通リデアツテ、一々數ヘ擧グルニ遑ガナイ。

胃腸障碍竝ニ羸瘦、虛弱。

是ハ結核症狀トシテ最モ早期ニ現ハレ、且ツ最末期迄持續スル、此障碍ノ輕重ト持續トハ屢〻生死ノ關鍵ト看做サルベキモノデアル。腸結核トイウ如キ特別ナル場合ヲ除キテハ、胃腸障碍ハ主トシテ全身ノ筋肉ノ萎弱ニ連レテ、胃腸ノ筋肉モ亦萎弱ナルニ因ルモノデアロウ。是ニ從ツテ、唾液、胃液、膵液等ノ分泌モ惡ク、其質モ不良ニナルデアロウ、肝臟ノ機能モ亦衰弱スルニアロウ。一時ハ唯榮養食餌療法＝訝シイ言葉デアルガ＝ニノミ是レ倚リテ結核治療ノ目的ヲ達

セントサヘ目論ミタコトモアリ、現今ニテモ其隋性ハ中々ニ侮リ難キモノガアル。其結果結核ハ贅澤病デアルトスル觀念サヘモ出來タ。

「マストクウア」ハ慥ニ結核治療上ノ一重要法デハアル。併シ往々ニシテ是ノミニ賴ラントスル傾向ハ警メヲバナラヌ。治療醫ガ若シ「マストク、ア」ノミヲ患者ニ强要シ、是ヲ行フ能ハザルガ故ニ治癒セズ、若クハ經過不良ナリトナサンニハ、寧ロ其無責任ヲ責メヲバナラヌ。矧ンヤ此療法ハ往々患者ヲ過食ノ弊ニ陷ラシメ、却テ最モ警戒スベキ胃腸障碍ヲ惹起スルカラデアル。殊ニ米飯ヲ主食トスル際ニ於テ然リデアツテ、肝腎ナル咀嚼法ニ特別ナル注意ヲ拂ハナイ一般俗人ニ向テハ米飯ハ殊ニ甚シク不消化ナル食料デアツテ、宮入教授等ノ紹介シ、推奬セラルヽ米國アタリノ咀嚼主義者ノ唱フル程度ニ米飯ヲ咀嚼セント欲セバ、普通ノ硬度ノ飯ニテ大口ナレバ、良齒列ノ者ニテモ七十回以上ノ交咀ヲ要シ、小口ニテモ猶且ツ三十回以上ノ交咀ヲ要トスル。試ミニ、肉類蔬菜類ヲ主トシテ與ヘ、少シク注意シテ咀嚼セシムルトキハ、米飯ヲ攝ルヨリモ咀嚼時間短カクシテ、猶且ツ甚ダ良ク消化スルヲ見ルノデアル。卽チ知ル、本邦人ノ腸排泄物ノ量甚ダ多キ所以竝ニ健者ニモ、病者ニモ胃ノ擴張、弛緩者ノ甚ダ多キハ主トシテ米飯ニ基因スルモノデアルヲ。於此本邦內學俗兩界ノ米飯禮讚黨竝ニ眞面目ナル食糧問題研究者等ニ向テ米飯ノ咀嚼乃至ハ米焚炊法ノ改良ヲ注意セラレンコトヲ望マザルヲ得ナイモノデアル。結核患者ハ大多數ハ既ニ胃腸障碍ヲ有スルモノデアルカラ、米飯ノ食べ方問題ハ殊ニ懇切ニ指示スベキノ必要ヲ痛感スルモノデアル。

私達ハ結核患者ガ如何ナル程度ニテ過食ノ弊ニ在ルカヲ概觀スル目的ヲ以テ、大阪市ノ療養所ニ收容セラレ居ル無熱輕症患者若干ニ就テ調査シタ。調査ノ標準症狀ハ、胃ノ壓痛、嘈囃、雷鳴、過食ニ因スルト思ハル腹痛、下痢、嘔氣、嘔吐、食慾不振等デアツタ。是等ノ人々ニ平生過食ヲ警メ、咀嚼ヲ勸メオルコトハ言フマデモナイ。

調査人員	八四人
上記ノ症狀ナキ者	五九人
同　　アル者	二五人

デアツタ。以テ如何ニ米飯ヲ主食トスル場合ニ胃腸障碍ヲ起スコト甚ダシキカノ一斑ヲ窺知スルニ足ル。

食品ノ選擇　ニ就テハ特ニ注意ヲ怠ツテハナラヌ。殊ニ所謂偏倚食ノ弊ニ陷ラナイ用心ガ必要デアル。虚弱ナル人々、有熱者ニテハ特ニ屢〻食品ニ好惡ガ甚ダシク、往々ニシテ甚ダ限ラレタル種類ノ食品ヲノミ繰リ返シテ居ルコトガアル。醫師ハ榮養不良ナル患者、治療ニヨリテモ體重ノ增加シナイ場合等ニハ常ニ必ズ混合食　ノ注意ヲ促スコトヲ忘レテハナラヌ。吾々ハ「ヴヰタミン」Aノミヲ以テ肺結核ノ治療豫防ヲ企テントススルガ如キ宣傳ニハ左袒スルコトハデキナイガ、多クノ結核患者、弱質兒童等ノ最モ簡單ナル偏倚食ヲ繰リ返シテ居ルコトハ同時ニ甚ダ警戒セヲバナラヌ。又肺結核患者ガ其極メテ初期カラ末期ニ至ルマデ肺動脈第二音ノ亢進症狀ヲ示シ、其外脚氣ニ類スル症狀ヲ有スルコトガ、「ヰタミン」B問題ト如何ノ關係アルヤハ未ダ不明ノ問題デハアルガ、體溫高キ動物ガ「ヰタミン」B缺乏症ニ罹リ易ク又治癒シ難イトイフ事實ニ鑒ミテ、殆ンド常ニ熱ヲ以テ終始スル結核患者治療ニ在テハ「ヰタミン」Bノ供給モ必ズ注意スベキ事項デアラヲバナラヌ。白米ヲ主食トスル本邦人結核ノ治療ニ當ツテハ「ヰタミン」Aヨリモ寧ロBノ方ニ重キヲ置クベキモノト考ヘルモノデアツテ、消化劑ヲ處方スルニ「ヰタミン」Bノ配合ヲ決シテ忘レナイヤウニ注意スルモノデアル。

消化劑若クハ食慾促進劑ノ選擇　ハ今日ノ如クカヤウニ澤山ノ新藥ガアリ、宣傳力ノ强弱ニヨツテ其名聲ガ左右セラルル如キ狀態デアルカラ頗ル困難デアル。私ハ消化劑トシテ種々ノ「ヂアスターゼ」ヲ必ズ用フルト同時ニ、含水炭素ト蛋白質トヲ同時ニ消化スル消化劑ヲモ可ナリ多數ニ經驗シタ。初メハ「バンクレアチン」ヲ、次デハ友人氏原均一博士ノ推奬ニ任セテ「アニモスターゼ」ヲ、可ナリ長ラク愛用シ、近頃ハ高龜良樹君ノ發案セル「エスコラーゼ」ヲ試ミテ、此モノハ啻ニ良ク消化スルトイウノミナラズ食慾ノ最モ不振ナル人々ニ用ヒテ、食慾ヲ促進スルコト不可思議トスルホドデアルコトヲ經驗シタ。

舊來ノ食慾促進劑卽チ所謂健胃劑　トシテハ主トシテ苦味藥ト稱セラルヽモノデ、「ゲンチアナ」根及ビ其製劑、「キナ」皮及其製劑、「コロンボ」根、「コンヂユランゴ」皮等可ナリ長ラク經驗モシ、現ニモ用ヒテ居ル。牛膽末モ用ヒテ良キ場合

ガアリ、「タンニン」酸「オレキシン」ノ價ノ高キガ、本邦産ノ「センブリ」草ノ粉末ト其效孰レガ勝レルト問フ者アラバ、富者ニハ「オレキシン」ヲ用ヒ、貧者ニハ「センブリ」末ヲ用ヒテ其效大差ナシト答フルニ躊躇シナイモノデアル。健胃藥ハ胃酸過多症、急性慢性ノ胃潰瘍ニハ禁ズベキデアル。

無熱患者ニシテ種々ノ方法ヲ講ジテ尙且食慾不振ナル場合ニ二三日ノ斷食ヲ勸メテ後大ニ食慾ノ亢進スルコトガアル、斷食ノ後ニハ極メテ徐々ニ極少量カラ食べ始メシムルコトガ大切ナル注意點デアル。

急性ノ胃腸障碍ハ斷食ノミニヨツテ一擧ニ是ヲ掃盪スルコトガデキル。

乍序、腸結核ニ醋酸鉛（鉛糖）ヲ大人量一日〇・一許ヲ連用シテ奇效ヲ認メタ老醫ガアツタ、近頃山北氏ハ「ヨードフォルム」〇・二五乃至〇・三ヲ連用シテ腸結核ニ偉效ガアルト報ゼラレテ居ル。我ガ岩佐大治郎君ノ銅劑中、「キウバン」Gト稱スルモノハヨク靜脈內注射ニ堪エ、是ヲ持重スレバ腹膜炎ニ有效ナルト同時ニ腸結核ニモ有效デアルト信ズル。

熱。

熱、卽チ體溫上昇ノ本態ハ今日猶未ダ明カナラザル點ガアリ、熱ニ對スル最モ合理的ナ療法トイフモノモ亦從ツテ猶ホ未ダ存在シナイ。或ル人々ハ熱ハ卽チ病原ノ攻擊ニ對スル生體ノ防禦反應ノ現象デアツテ卽チ自家防禦作用ノ現ハレデアルカラ、矢鱈ニ是ヲ抑制スベカラザルモノデアルト說ク向モアルガ、防禦作用ノ現ハレデアルハ可ナリトシ、此現ハレガアルカラシテ結果ニ於テ利益ガ認メラレルト云フ證明ガナイ限リ、是ヲ抑制シテハナラナイトイフ理論ハ成リ立タナイト思ハレル。私見ヲ以テスレバ、熱ハ何レノ場合デモ是アルガタメニ身體ノ衰弱ヲ招クコトハ爭ハレヌ事實デアリ、卽チ何レノ疾病デモ、結核ナレバ何レノ病期ニ於テモ、熱ノ高キヨリモ低キガヨク、有ルヨリモ無キニ如クハナイノデアツテ、從ツテ是ヲ取リ去ルコトニハアラン限リノ努力ヲナスコトガ至當デアル。同樣ノ理論ハ咳嗽ニモ、喀痰ニモ、其他種々ノ症狀ニモ亦適用サルベキモノデアル。

熱ヲ防グガタメニ、解熱劑ヲ用ヒズシテ其目的ヲ達スルアラバ最モ理想的トシナケレバナラヌ。「ツベルクリン」ヤ、他ノ蛋白刺戟療法ニヨツテ往々都合ヨク解熱スルコトモ多クノ人ノ知ル所デアリ、種々ノ機能亢進劑、例之バ人蔘ノ如キ

ガ解熱ノ效アルモ知ラレテ居ル。吾々ノ特殊製劑ガ特殊ノ解熱作用ヲ現ハスコトモ一再既ニ報告シタル所デアル。

前述ノ如ク結核病ハ一ノ特殊炎症性疾患デアルカラシテ、炎症ガ旺ンナレバ熱モ亦從ツテ高ク、炎症ガ衰フレバ熱モ亦從ツテ下降スルモノデアルカラ。熱ニ對スル第一ノ手段ハ此炎症ヲ緩解スルノ手段デナケレバナラヌ。卽チ病竈ノ刺戟ヲ去ル一切ノ手段デアツテ、無言安靜平臥療法、精神ノ衝動ヲ防グコト、咳嗽アル場合ハ鎭咳劑ノ投與等デアル。適當ナル氣候ニ、若クハ適當ナル施設ノ下ニ外氣ニ平臥セシムルコトガ、解熱ニ有效ナルハ田澤博士カラオ聽キニナル所デアル。解熱劑ニモ、安靜平臥ニモ應ジナイ輕熱ノ場合ニ、適當ナル入浴療法ヲ用ヒテ有效デアル場合モアル。

解熱劑ヲ用フル際ノ最モ大切ナル注意ハ、一、副作用ノ劇シキ藥劑ヲ避ケルコト、二、日差ヲ注意シテ發熱後及ビ下降ニ向テ是ヲ與フルコトヲ絕對ニ避ケテ、必ズ發熱前ニ服用セシムル如クスルコトデアル。卽チ豫メ熱型ヲ觀測シ得タル場合ハ是ニ應ジ、觀測シ得ナイ場合ハ推測ニ由テ時間ヲ指定シテ是ヲ用ヒシムルヲ可トス。

解熱劑トシテ現ニ最モ廣ク行キ亙レルモノハ「ピラミドン」デアル。「フエナセチン」、「アスピリン」、「ザリピリン」、「アンチフェブリン」等モ用ヒラル。以前甚ダ有效ナル解熱劑トシテ二三年モ「マレチン」ヲ用ヒタルガ、連用ニヨツテ高度ノ貧血ヲ起シ、不快ナル藥品デアル。「ヱルボン」ナルモノガ、殆ンド結核熱ノ特效藥ナルガ如キ宣傳ガアルガ、値ノ不廉ナルト、嵩ト使用量ノ多キトハ缺點デアル、加之、結核治療上缺クベカラザル良藥トハ思ハレナイ。

「キニーン」ハ舊來カラ廣ク用ヒラル、所デアリ、結核治療上ニハ手放シ難イ良藥ノ一デハアルガ、其鹽酸鹽、硫酸鹽ヤハ苦味ノ甚ダシキ上ニ、胃ヲ刺戟スルコト强ク、且ツ往々耳鳴、眩暈等ヲ起シテ不快デアル、此苦味ヲ緩和シテ、胃刺戟ヲ減ジ、副作用殆ンドナキ「キニーネ」劑トシテ、私ハ先年來枸櫞酸鹽ヲ自製シ、賞用シテ居ル。

二種以上ノ組成ヲ異ニシ、作用時間ヲ異ニシタ解熱劑ヲ伍用スルコトハ解熱ノ目的ヲ都合ヨク達スル上ニモ、藥品ノ副作用ヲ避クルガ上ニモ極メテ有利ナ方法デアル。又解熱劑ハ多クハ同時ニ發汗作用ヲ有シ、甚ダシキハ心臟ノ衰弱ヲ誘起スル傾向ガアルカラ、是ガ使用ニハ常ニ必ズ强心劑ヲ伍用スルコトヲ忘レテハナラヌ。

處方　「アスピリン」(一・〇)「ピラミドン」(〇・三)安息香酸「ナトリウムカフエイン」(〇・五)乳糖(一・〇)分二、午前十一

時、午後三時、或ハ之ヲ分三トシ、鎮咳劑ヲ伍用スル。

枸櫞酸「キニーネ」(〇・三乃至〇・八)、「ピラミドン」(〇・二乃至〇・五)、安息香酸「ナリウムカフェイン」(〇・五)乳糖(一・〇)分二、用時同前、此處方中、「ピラミドン」ノ代リニ「フェナセチン」(〇・四乃至〇・八)ヲモ賞用ス。此處方ハ私ノ所謂藥籠中ノ祕藥トモ謂フベキモノデアツテ、之ニヨツテ得タル解熱ノ病例二三ヲ熱型ニヨツテ供覽スル。乍序、此處方ハ流感、小兒ノ氣管枝炎、加答兒性、「クロープ」性肺炎等ニモ屢〻特效アル如ク思ハル。同ジ「キノリン」ノ誘導體タル「クプレイン」化合體ガ肺炎雙球菌ニ對シテ特殊ノ殺菌力アリトスレバ、「キニーン」モ亦其作用アリテ然ルベキカ。果シテ然ラバ肺結核ノ混合感染ニ對シテモ有效ナルベキノ理由モアル。

結核熱ヲ治療セント欲シテ特ニ注意スベキハ婦人病殊ニ慢性ノ子宮內膜炎ニ因スル輕熱ガ肺結核初期ノ輕熱ト紛ラワシキコトデアル、婦人ノ結核患者ニ接スル者必ズ之ニ留意シテ誤リナキヲ期セネバナラヌ。

盜汗

盜汗ノ藥物的療法デハ從來「アトロピン」ニ匹敵スルモノナシト考ヘラレタ。實際「アトロピン」ナレバ如何ナル重症ニデモ奏效ハ的確デアル。「アトロピン」〇・〇一、白陶土ヲ以テ丸劑四十粒トナシ、臨臥二乃至四丸。又ハ皮下注射トシテ〇・〇〇五乃至〇・〇〇一。連用ハ出來ナイ、中毒症狀卽チ、口渴、散瞳ニ注意ヲ要スル。

種々ノ點ニ於テ「アトロピン」ト反對ノ作用ヲ有スル「アドレナリン」ガ、矢張リ盜汗制止藥トシテ作用スル。甲ハ腺ノ分泌作用ヲ制止スルニ由リ、乙ハ病的ニ擴張セル血管ヲ收縮セシメテ、心臟ノ調節ヲ良クスル作用ガアルカラデアル。結核感染ガ「クローム」親和系統ヲ障碍シテ末梢血管ノ擴張、血壓下降ヲ來シ、由テ以テ盜汗ヲ發スルノ因ヲナシ、「アドレナリン」ヲ與フルコトニヨツテ盜汗ヲ防ギ得ベシトイフ理論ト實際ニ確カナル根據ヲ與ヘタルハ吾ガ高龜良樹君デアル。千倍「アドレナリン」〇・五乃至一・〇瓩、通常〇・七瓩皮下注射。

其外盜汗ニハ古クヨリ樟腦竝ニ樟腦酸ガ用ヒラレ、「ブローム」樟腦モ用ヒラレタ、樟腦酸一・〇臨臥頓服ハ可ナリ有效デアツタト記憶スルガ、近數年來瀨良博士ハ樟腦誘導體ヨリ制汗劑ヲ作ルベク努力セラレテ、既ニ數種ニ及ビ、最近ノ「カ

ンホトニン」ト稱スルモノハ少量ニシテ甚ダ有效デアル。〇・〇二乃至〇・〇三頓用、臨臥。漢藥ノ大蒜卽チ「ニンニク」ノ球根カラシテ一種ノ液體ヲ得、「スコロドール」又ハ「クボチン」ト稱シテ近頃市場ニ出デタルモノガアル、久保田氏ノ作ル所デアルガ、之ガ結核ノ特效藥デアルトハ思ハナイガ、其〇・五乃至一・〇ヲ皮下ニ注射シテ頑固ナル盜汗ガ、屢〻二三夜、往々數夜ニ亙リテ止マル如キヲ經驗シタ、重症末期ニテハ無效ノ場合ガ多イ由デアルガ、輕症ニテハ殆ンド確實デアル。此藥品ガ如何ナル生理的作用ヲ有スルニ由テ此制汗作用アルヤハ未ダ明カデヲイガ、想像スル所デハ「クローム」親和系統ノ作用ヲ振興セシムルモノデハアルマイカ。

咳嗽ト喀痰

咳嗽ハ大別シテ二種アル。一ハ痰ヲ喀出スルガタメニ出ル反射性ノ咳嗽デ大抵濕潤性デアリ、他ハ乾燥性デ、刺戟性、痙攣性ノ咳嗽デアル。前者ハ理論上咳嗽ノミヲ止メル目的デ治療スベキデハナイガ、前ニモ述ブルガ如ク、病竈ノ刺戟ハ可及的之ヲ避ケナケレバナラヌノト、Penzohlif 氏モ言フタ如ク、『咳嗽ハ咳嗽ヲ生ム』モノデアルカラ、ヤハリ、出來ルダケ之ヲ緩和スルコトニ努メネバナラヌ。後者卽チ刺戟性ノ咳嗽ハ肺門、氣管枝腺腫脹、肋膜炎性刺戟等ニ由テ起リ殊ニ夜間就寢後ニ增劇スルモノハ主トシテ氣管枝腺腫ノ炎性腫脹ヲ語リ、喀痰稀薄少量ニシテ晝夜間斷ナク咳嗽頻發スルモノハ急性滲出性肺癆ニ由ルコトガ多イカラ、共ニ極力之ガ防止ニ努ムベキモノデアル。

痰ヲ喀出センガタメニ起ル咳嗽ハ痰ノ粘稠度ヲ減ジテ其喀出ヲ容易ナラシムル手段ヲ講ズルコトガ今日マデノ多クノ治療家ノ習慣デアツテ、此目的ニ吐根若クハ「サポニーン」ヲ含有スル諸種ノ「ドローグ」又ハ製劑ノ用ヒラルヽハ殆ンド鐵則ノ如クナツテ居ル。私ハ吐根類ニモセヨ、「サポニーン」ヲ主成分トスルモノニモセヨ、卽チ所謂祛痰劑ナルモノヽ效能ニ可ナリ疑ヲ有チ、同時ニ其副作用ヲ厭ハシトスル者デアル。吐根劑ノ作用ガ、胃ヲ刺戟シテ嘔氣ヲ起シ、由テ以テ氣道粘膜ノ分泌ヲ高ムルニアルハ云フマデモナシトシ、苟クモ榮養ノ衰ヘルヲ怖ルヽ結核患者ニ向ツテ、胃ヲ刺戟シテ嘔氣ヲ催サシメ、延イテ食慾ヲ障碍スル如キハ、縱シ一時的ニデモ之ヲ避ケタキ所デアル、然ルニ肺結核ノ多クノ場合ハ之ヲ持重スルノ必要アル場合ガ大多數デアルカラ、肺結核ニ吐根劑ヲ用フルハ小目的ノタメニ手段ノ惡シキヲ選バズ

シテ、大目的ヲ逸スルノ結果ニ陷ルヲ指摘セザルヲ得ナイモノデアル。「サポニーン」ヲ主成分トスルモノ、卽チ、「セヂガ」、遠志ノ類ハ藥理學上ニモ疑義ノ存スルモノデアリ、實際ニハ吐根ト略ボ同樣ノモノデアルラシキガ故ニ吾々ハ既ニ長ラク之ヲ排斥シテ敢テ用ヒナイ。矧ンヤ結核患者ノ咳嗽ニ惱ムハ痰ノ喀出困難ナル場合ハ稀デアツテ、寧ロ喀痰ノ量多キニ苦シムガ普通デアルカラ、反對ニ喀痰ノ量ヲ減ズルノ方策ヲ採ルベキモノデハアルマイカ。又痰ノ喀出ヲ容易ナラシムルノ目的ヨリスレバ所謂祛痰劑ヨリモ、寧ロ强心劑ヲ與フル方、却テ合理的デアル。卽チ鎭咳劑ト强心劑トヲ伍用スルヲ以テ足レリトスル。私見ニテハ一杯ノ熱キ牛乳、砂糖湯、熱キ紅茶ノ如キモノハ「セヂガ」浸、杏仁水ニ優ルコト萬々デアル。

鎭咳劑デハ「バントポン」(〇・〇一乃至〇・〇三、分三乃至分六)、燐酸「コデイン」(〇・〇五乃至〇・一、分三乃至分六)、便祕ニ苦シム場合ハ是等ノ量ヲ減ジテ、十%「ヒヨス」越幾斯(〇・三乃至〇・五)ヲ伍用シ、之ニ安息香酸「ナトリウムカフェイン」、又ハ樟腦等ヲ配スル。有熱患者ニテハ前ニ論ジタ解熱劑ト之ヲ配合スル。一時的ニ痰ヲ增加シタ場合、例之急ニ氣管枝炎ヲ併發シテ、然カモ無熱ナル場合ノ如キニハ安息香酸(〇・五乃至一・〇)ニ鎭咳劑ヲ伍スルモ面白イ。田澤博士等ノ經驗推奬サル、「フスタギン」ナルモノハ甚ダ有效ナル由デアル。喀痰ノ愈〻多クシテ困難スル場合ニハ次ニ喀血ノ項ニ於テ述ブル、「テレビン」油ノ處方ヲ愛用スル。

氣管枝腺ノ腫脹、急性滲出性炎症、肋膜炎等ニ由ル刺戟性咳嗽ニハ藥物的療法ニテハ殆ンド策ノ施スベキモノ無キ場合ガ多イ、從來ハ前述ノ枸櫞酸「ヒニーン」、「オイヒニーン」等ニ「ピラミドン」、「アンチピリン」等ヲ組合ハセ、鎭咳劑ト强心劑ト、加之ニ、催眠鎭經劑(例之、「アダリン」、「カルモチン」等ノ如シ)ヲ雜然ト配合シタ。現ニハ專ラ自家創案ノ特殊療法ヲ以テ之ニ臨ミ、殆ンド每ニ滿足ナル成績ヲ擧ゲテ居ルガ、之ハ今日ノ問題トハ關係ガナイカラ、詳シクハ述ベヌ。咳嗽喀痰ニ對シテ、安息香酸「カルチウム」ヲ自製シテ稍〻長ラク經驗シタ、多少ノ鎭靜作用ハアル、味モヨク、胃ノ刺戟モ少ナイガ、安息香酸ニ比シテ其效勝レルトハ思ハレナイ。鎭咳劑デハ、「バントポン」、若クハ「バントポンスコポラミン」ヲ最上トシ、「コデイン」、「ヒヨス」越幾斯之ニ次ギ、「モルフィン」モ時トシテ用フルガ、之レナキヲ苦シマ

ズ、「ヘロイン」ハ嫌ナ藥品ニ屬スル。

序ニ一言、鎮咳劑殊ニ上記ノ「モルフィン」誘導體ニヨル「モヒ」中毒ニ及ビタイ。神經科ノ臨牀家等、屢〻莫比中毒患者ニ接スル人々カラハ、私達ノ處方ニ對シテ太ダシク危惧ノ念ヲ抱カル、ヲ耳ニスル。勿論吾々トテモ之ヲ怖レナイモノデハナイガ、私見ヲ以テスレバ「モルフィニスムス」、「コカイニスムス」ノ如キハ殆ンド必ズ特殊ノ素質ヲ有スル人々ニノミ發生スルモノデアルラシク、斯ル人々ハ唯ダ僅ニ一二回ノ使用ニヨツテモ往々再ビ之ヲ棄ツルヲ難シトスル場合ヲ生ズル由デアルガ、多クノ人ハ左マデ之ヲ惧ル、ニハ足ラヌト思ハレル。私自身ニハ既ニ十有五年以來結核患者ノ治療ニ從事シ、一日トシテ上記ノ鎮咳劑ノ處方ヲ廢シタルコトハ無キニモ拘ラズ、未ダ曾テ「モルフィニスト」ヲ出シタコトハ無イ。卽チ私見ニテハ「モルフィニスト」ノ發生ハ極メテ例外的ニ稀ナルモノデアル。結核患者ガ特ニ斯ル抵抗力ヲ有スルヤ否ヤハ未ダ知ラナイ。萬一ニモ然ルコトアランニハ結核治療醫トシテ自他ノ至幸デアル。去リナガラ、「モルフィン」劑ノ使用ニハ常ニ細心ノ注意ヲ必要トシ、鋭利ナル兩刃ノ劍タルコトヲ忘レテハナラヌ。

喀血

結核症狀ノ中デ最モ厭ハシキモノハ喉頭結核ノ疼痛ト喀血デアル。之ガ療法トシテハ、病竈ノ安靜ヲ以テ終始第一義トスル、卽チ田澤博士ノ領分デアル。併シナガラ、其局部ノ安靜ヲ目的トスル藥物療法モアル、魔醉劑、殊ニ「バントポン」、「スコポラミン」、「モルフィン」等ノ應用デアル。市販ノ「バントポン、スコポラミン」溶液〇・五瓦等ハ屢〻治療醫ノ名聲ヲ博スルニ足ルモノデアル。或ハ曰ク、魔醉劑ヲ喀血ニ濫用スレバ、ソレガタメニ吸引性肺炎ヲ惹起シテ其害怖ルベシト、濫用ハ誠ニ不可、善用ハ缺クベカラズ。大ナル喀血ニ際シテハ甚ダ幸運ノ場合ハ別トシテ、多少ノ吸引性肺炎ハ免レ難シ、又吸引性肺炎ヲ怖ル、結果、脫血死ヲ怖レザルコトモアランナリ。彼是、喀血ニ魔醉劑ヲ用フルハ已ムヲ得ズト思フ。一〇乃至二〇％濃厚ナル食鹽水一〇乃至二〇・〇瓦ノ靜脈內注射ハ甚ダ有效デアル、「コアグレーン」ト稱スルモノガアル。

麥角浸若クハ其製劑ヲ喀血ニ用フルヲ屢〻見受ケルガ、之ハ藥理學上ニテハ既ニ肺出血ニハ有害デアル筈デアリ、實際

ノ效モ寸毫モナイ、最モ滑稽ナル誤用デアル。「アドレナリン」モ無效デアル。「ゲラチーン」ヲ用フルコトガ古クカラノ習慣デアルガ其效能ハ疑ハシク、急場ノ役ニ立ツコトハ先ヅナイ。或ハ曰フ、「ゲラチーン」ノ血液凝固作用ハ其中ニ含マル、「カルチウム」ノタメデアルト。「カルチウム」ハ近來大流行ヲ極メテ居ルモノデアルカラ、果シテ、然ラバ「ゲラチーン」ノ必要ハナイ譯デアル。若シ之ヲ用フルナラバ、必ズ嚴重ニ滅菌シタモノデナケレバナラヌ。便利ナ世ノ中デ、濃厚食鹽水デモ、「ゲラチーン」デモ市中販賣ノモノガアル。但シ、「ゲラチーン」ヲ皮下ニ注射スレバ其部ノ疼痛ガ可ナリ劇シキガ故ニ、之ヲ出血側ノ胸部皮下ニ注射スレバ、胸部ノ安靜ヲ保ツニ役立ツトイフ、砂囊ヲ貼スルカ、絆創膏緊縛法等ノ方勝ラズヤ。「カンフル、オレーフ」油ノ大量ヲ皮下注射シテ喀血ニ有效ナリトスル人々ガアル、一〇乃至二〇%二・〇乃至三・〇瓦、一日數回。少量ノ喀血ガ止マリ難キ場合ニ「ヂギタリス」劑ヲ用ヒテ奏效スルコトガアル、靜脈出血タルコトガ確實ナレバ初メヨリ用フルモ可ナル譯デアルガ、果シテ靜脈出血ナルヤ、動脈出血ナルヤヲ初メヨリ知ルハ至難デアリ、「ヂギタリス」劑ノ應用ハ喀血ニハ其範圍ガ狹イ。

自家ノ經驗デ長年最モ愛用スル止血劑ハ「テレビン」油デアル。(「テレビン」油、甘扁桃油各一・五乃至三・〇、「バントポン」〇・〇一乃至〇・〇三、「アラビヤゴム」、單舍各一〇・〇乃至一五・〇、乳劑一〇〇・〇乃至二〇〇・〇トナシ、一日三回乃至六回)。此處方ハ今日マデノ經驗デハ之ホドノモノハ曾テナシト信賴シテ居ル、殊ニ內服藥ナルガ故ニ甚ダ便利デアル。右ノ中甘扁桃油ハ矯味矯臭、緩和藥デアル、已ムヲ得ザル場合ハ「オレーフ」油ニテ代用セラル。又此處方ハ前ニモ述ブル如ク、喀痰ヲ減ジ、從テ咳嗽ヲ緩和シ、其外慢性肺炎、氣管枝炎、肺氣腫等ニモ太ダ有效デアリ、殊ニ急性肺壞疽ニ特效藥的治效ガアツテ、一般內科醫ニ向テ大ニ推奬スルニ足ルモノデアル。「テレビン」油ノ生理的作用ハ未ダ充分明カデハナイ、ガ、連用シテモ無害デアル、恐ラク呼氣ニヨツテ其成分ノ一部ガ排泄セラル、ニヨルノデハアルマイカト思ハル、其尿中ニ出現スルコトハ紙野君ノ述ブル所デアル。

甚ダシキ喀血ニシテ窒息ノ虞アル場合ニハ吐根、又ハ「アポモルフィン」ノ如キ吐劑(吐劑トシテ作用スルノ量)ヲ用ヒテ凝血ヲ喀出セシムルコトモアル。自分ノ經驗ハ無イ。

胸痛

原因ニヨリテ處置ヲ異ニセヲバナラヌ。急性肋膜炎若ハ肋膜癒著ニ因ルト思ハル、モノハ濕布、「ヨード」丁幾塗布等ニ兼ヲテ、「アスピリン」、「ザリピリン」等ガ有效デアル、肋間神經痛若クハ筋痛デアレバ、其局所ニ食鹽水、「ノイラルギン」「アンチピリン」溶液等ノモノヲ注射シテモ效ガアリ、又ハ無效ノコトモアル。咳嗽ニ因スルモノハ實ハ多クハ側腹筋ノ痙攣デアル、鎮咳劑ヲ用フル以外ニハ殆ンド效ナキ場合ガ多イ。隨分頑固ナ肋間神經痛ト謂フベキモノガ、特殊療法ニヨツテ頓挫スルコトガアル。又黴毒診斷陽性ノ者デハ驅黴法ニヨツテ拭フガ如ク除去セラル、コトモアル。胃ノ停滯ニ胸痛ヲ訴フル者モアル、又胃痛ト胸痛トガ往々混同セラル、、殊ニ胃酸過多ニ多イ。

肩ノ凝リ。ヲ訴ヘラル、コトガ、太ダ多イ。肺尖ノ癒著ニ因ル牽引痛デアルノモアラント思ハル、ガ確認シ難イ、多クハ胃内ノ異常醱酵、過食、酸多症等ニ因スルモノト見ル、乃テ先ヅ胃ノ故障ニ注意シテ、之アラバ、重曹、瓦性「マグヲシア」類ヲ與ヘ、確カニ胃ノ故障ニアラズトスル場合ガ肺尖ノ癒著ナリト想像シテモ可イ、其場合ハ肋膜炎ノ癒著ニ準ジテ處置ヲスル。慢性婦人病ニ關係セルコトモ稀デナイ。

呼吸困難

末期ニテ、肺ノ呼吸面ノ減少セル者又ハ甚ダシキ心臟衰弱ニヨリテ呼吸困難ガ起ルモノナレバ之ヲ如何トモ致シ方ガナイ、酸素吸入ニヨツテ又ハ強心劑ニヨツテ一時的緩解ヲ希ヒ得ルニ過ギナイ。肺ノ呼吸面ガ猶ホ相應ニ存スル者ニ來ル呼吸困難ハ主トシテ心臟衰弱、高度ノ貧血デアルカラ、之ハ一般狀態ノ改善ヲ俟テバ自然ニ消失スル。一過性ノモノハ往々過食卽チ胃ノ膨滿ニ因スルコトガアル。肋膜炎性滲出物ニヨル壓迫ハ一時的ニ呼吸困難ヲ起ス、肋膜炎ノ手當ヲ要スル。肋膜ノ癒著ニヨツテ呼吸困難ヲ起スハ少ナイ、唯肋膜ト心囊トガ癒著牽引ヲ受ケル場合ニハ働作性呼吸困難ヲ貽スガ治療ノ方法ガナイ。要スルニ呼吸困難ハ直接肺ノ呼吸面ノ減少ニ因スルハ稀デ主トシテ心臟働作ニ關スルガ多イノデアルカラ、「カムフル」、「コフェイン」、少量ノ「アルコホル」劑等ヲ處方スル外ハナイ。最後ノ手段ハ「モルフィン」、「バントポン」、「コデイン」等デアル、之ハ必ズ絶對安靜ノ下デ使用スル、麻醉劑ヲ善用スレバ大ニ感謝サレルコトガア

ル。

不眠症

原因ニヨリテ處置ヲ異ニスル。咳嗽又ハ盜汗ノタメナレバ前述ノ咳嗽竝ニ盜汗ノ手當ヲスル。神經衰弱デハ理學的療法精神的慰安法等ヲ取ル。睡眠劑ハ唯ダ睡眠時間ヲ調節スルタメニ用フルガ、連用ハ宜シクナイ。種々ノ藥品ガアル。「アダリン」(〇・三乃至〇・五)頓用、「アダモン」、「ブロムラール」、「カルモチン」等皆略〻同量デアル。結核患者精神ノ發動ハ往々意想ノ外ニ逸セルコトガアルカラ、單ニ不眠症ト稱シテモ眞ノ不眠症ニアラザルコトガアル、例之バ午睡ノ習癖ガアッテ夜間ノ安眠ヲ妨ゲラレ居ルコトアリ、之ニハ午睡ヲ禁ジテ、一、二回ノ催眠劑ヲ以テ睡眠時間ヲ調節スルヲ以テ都合ヨクナルコトガ多イ。

心臟障碍

神經性ノモノハ一應不眠症ノ例ニ倣ッテ處置スル。元ト全身筋肉ノ萎弱ニ基クモノハ體力ノ恢復ト俱ニ恢復スル。肋膜炎、又ハ之ニ伴フ心囊炎若クハ其治癒後ノ癒著牽引等ニ因ルモノハ治療法ハナイ。バセドフ氏病ニ因ルモノハ一應ハ沃度劑ヲ試ミ、已ムヲ得ザレバ外科的手術ニ任ス。末期ニ近ヅイテ肺患者ニ現ハル、心臟衰弱ハ肺ノ呼吸面ノ減少ニ因ルヨリモ重要ナル呼吸困難ノ原因デアル。之ニハ「カンフル」ノ大量ガ最モ有效デアル、此場合ニ用フル「カンフル」ノ量ハ一日一・〇瓦以上三・〇瓦ニ達スルトモ害ハ少ナイ、少々ノ喀血アリタリトテモ餘リ差支ハナイ。「カンフル」善用ニヨリテ啻ニ一時ノ急ヲ救フヲ得ルノミナラズ、往々數ケ月ノ小康ニ入ルヲ得ルコトガアル。最末期ニ到リテハ亦何ヲカ言ハンヤデアル、心臟衰弱ニ「カンフル」ヲ使用スルハ最末期ニ至ラザル前ノ問題デアル。

貧血

肺結核ノ極初期カラシテ、殊ニ子供ニ在テ頑固ナル高度ノ貧血ヲ呈スル者ガアル、多クハ蛋白食ノ缺乏卽チ、肉類ヲ嫌惡スル者デアル。之ニハ出來ルダケ肉食ヲ奬勵シ、肉汁、「ヘモグロビン」等ヲ與フル、殊ニ小供ニテハ「ヘモグロビン」ヲ與フルニ依テ血色素量ノ速ニ增加スルコトガアル。鐵劑ハ胃ノ故障ヲ起サヌ程度ニ用フルヲ可トス、此注意サヘアレ

バ特ニ藥品ニ選擇ハナイ。食慾ヲ振興セシムル種々ノ手段ヲ取リテ、榮養ノ恢復ヲ圖ルヲ要トスル、上質ノ「キナ」鐵「ブドウ」酒ヲ食前ニ推奬シテ良效アル場合モアル。肉類ノ代リニ種々ノ既ニ多少消化シタル蛋白製劑ヲ用ヒテ都合ヨキコトアリ。

合併症

ヲ速ニ發見シテ之ヲ治療スルコトハ屢〻肺結核ソレ自身ノ治療ニ努力スルヨリモ有效ナルコトガアル。就中、黴毒ト腸寄生蟲ノ驅除ヲ重要ナリト見ル。黴毒ノ療法ニハ種々ノ苦心ガアルガ敢テ茲ニ說カヌ、所謂肋膜肺炎ノ型ニ於テ現ハルル肺結核ニハ特ニ黴毒ヲ合併症トスル者ガ多イ、之ニ注意シテ徹底的ニ驅黴療法ヲ行フニヨッテ結核モ亦爾後速ニ臨牀上ノ治癒ニ赴ク者ヲ經驗スル。黴毒自身ガ身體的衰弱ノ因ヲナスモノデアルカラ、結核ニ取ッテ怖ルベキ合併症デアルハ多言ヲ要セヌ。

寄生蟲、就中十二指腸蟲ト蛔蟲ハ結核ノ合併症トシテ厄介デアル。十二指腸蟲ノ驅除ニ下劑ヲ用ヒテ、往々之ヲ反復シテモ尙且ツ完全ニ驅除シ難イコトガアル。殊ニ冬期ハ驅除困難ナリト稱スル人ガアル。我ガ青山敬二博士ハ十二指腸蟲體ヲ一匹約一・〇瓲ノ〇・五％食鹽水乳劑トナシテ皮下注射ヲ施スニ局所ニ多少ノ反應アリ、數回ニシテ良ク例外ナク之ヲ驅除シ得タル稍〻多數ノ例ヲ經驗セリト言フ。從來ハ斯ル寄生蟲類ノ免疫體ハ出來ナイモノト考ヘラレテ居ル由デアルガ、高等動物ノ臟器細胞ヲ用ヒテ細胞毒等ノ免疫體ヲ生ズルコトガ確メラレテ居ルノデアルカラ、線蟲類ニモ出來ナイ理由ハナイカノヤウニ思ハレル、試ミテモ可ナル方法デアルカラ特ニ附言スル。洗ヒ上ゲタ十二指腸蟲體ヲ〇・五％「カルボール」食鹽水ニ投ジテ送致セラルレバ「ワクチン」ヲ義務的ニ製造シテ上ゲテモ可イ。

蛔蟲ガ種々ノ惡戲ヲナスコトニハ忍ビ難イ忿懣ガアル。現今ノ蛔蟲ハ既ニ明治以來ノ「サントニン」耐性ガ蓄積シテルヤウデアル。海仁草製劑ハ無害ナルハ可イトシテ、的確ナル奏效ハ望マレナイ、賣藥(?)ニ所謂「マグリ」ト稱スル漢方煎藥ガアル、海仁草ヲ主成分トスルハ言フヲ俟タナイガ別ニ種々ノモノガ伍入シテアッテ往々甚ダ有效デアル。近頃福岡長命研究所ノ「ソウヴェラン」トイフ粉劑ガアル、恐ラク此漢方ノ諸藥ヲ抽出シタルモノラシク、甚ダ有效デ、別ニ下劑

等ヲ用フルヲ要セズシテ、屢〻幼若ナル蟲マデヲモ、死骸トシテ排除スル、此藥品ヲ得テ初メテ蛔蟲戰ヲ勝利ヲ以テ終ハルヲ得ルノ自信ガ出來タ。一日大人量三・〇瓦。

糖尿病。ソレ自身トシテ厄介ナ病氣デアリ、結核ノ合併症トシテ甚ダ厄介デアル。已ムヲ得ズ一般ノ糖尿病療法ヲ行フ。

腸結核ト喉頭結核。共ニ原發スルハ稀デ、肺結核末期ノ合併症デアル、末期デハ致方ガナイガ、輕キ肺結核ニ合併シタルモノ、又ハ殆ンド原發ノ狀態デ起ルモノハ極力治療ニ努メネバナラヌ。腸結核ノコトハ前ニ既ニ一言シタ。喉頭結核ノ疼痛ハ殘酷ナ症狀デアルカラ、之ガ對症療法中私達ノ常用スルモノヲ擧ゲル。

岩佐守三氏加藤亨氏等ノ創案セル〇・〇三%ノ醋酸ヲ含ム〇・三%沃度「ナトリウム」水ト三十倍過酸化水素水トヲ二口ヲ有スル(大阪白井松)蒸氣吸入器ヲ用ヒテ吸入シ、後ニ〇・三%亞硫酸曹達水ヲ以テ口中、顏面等ノ游離「ヨード」ヲ洗ヒ去ルノ方法、竝ニ之ヲ岩佐大治郎君ガ改良シテ、「ヨードナトリウム」ノ代リニ「ヨード」水素酸水ヲ以テスルノ方法ハ都合ヨク潰瘍面ガ吸入蒸氣ニ觸ル、部位ニアル場合ハ啻ニ疼痛ヲ緩解、除去スルノ作用アルノミデナシニ、治療的效果モアル。以上ノ兩液ヲ潰瘍面ニ交互ニ塗附スルコトモ同樣ノ效果ガアル筈デアル。

治癒ノ望ナキ者ノ疼痛ヲ鎭靜スル方法ガ種々アルガ、ホフマン氏法ト稱スル迷走神經ノ上喉頭枝ニ八〇%乃至九〇%ノ「アルコホル」ヲ注射シテ知覺ノ麻痺ヲ圖ル方法ハ屢〻感謝ニ値スルモノデアル。痰ノ減少ヲ圖リ、鎭咳ノ法ヲ講ジ、發聲ヲ可及的制限スル等ハ型ノ通リデアル。

肋膜炎、腹膜炎、其他臓器ノ結核性疾患ハ今ハ之ヲ省ク。

婦人病　ガ結核性ナル場合合併症トシテ重大ナルハ言フマデモナシトシ、其非結核性ナルハ既婚者ニテハ殊ニ頻出スル合併症デアリ、殊ニ輕熱ノ原因トシテノ子宮內膜炎、膀胱炎等ハ結核微熱ト甚ダ屢〻誤認セラル、。故ニ婦人病、白帶下ノ有無ハ結核既往症訊問ニ際シテ是非トモ記載サレナケレバナラヌ。其婦人病ノ療法ハ須ク專門家ノ處置ヲ仰グベシトシテ藥物學的處置トシテ、麥角製劑(「スチプテチン」錠、又ハ「スタプチン」錠朝夕二個宛)ノ如キハ往々其酬勞犒ハシキ洗滌療法ニ優ルコトガアル、淋疾ナレバ淋菌「ワクチン」、大腸菌「ワクチン」等、兼テ廣ク用ヒラル、「カルチウム」注

射療法ト相俟ツテ卓效ヲ奏スルコトガアル。貧血ガ婦人病ノ原因ヲナス際ノ如キハ純粹ニ內科醫ノ畑ノモノデアルカラ結核治療家モ婦人病ニ無關心デアツテハナラヌ。終リ。（大正十五年三月稿）

田澤鐐二博士ノ宿題報告及ビ宿題報告ニ對スル附議ハ次號ニ掲載ス。